

2 自宅を「安全な場所」にするには？

自宅は、1日の中で最も長い時間を過ごす場所です。また、自宅は「くつろぎ」「就寝」の場所であることから、わたしたちが災害に対して無防備になりやすいところでもあります。

ですから、自宅を「安全な場所」にしてあげれば、その分、地震などの災害発生時の被災リスクが低下するのです。できることから、今すぐに、安全対策に取り組みましょう。

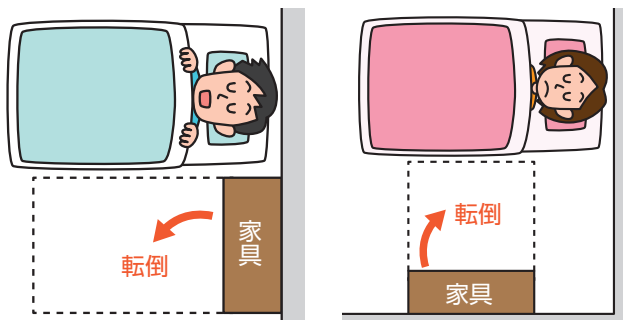
家具の配置を考える

家具をできるだけ置かない

- 寝室やダイニングテーブルの周囲など、「寝る場所」「よく居る場所」には、できるだけ家具を置かないようにします。
- 玄関、廊下、部屋の出入口には、転倒しやすい家具や移動しやすい家具は置かないようにします。地震で倒れてしまうと、通路がふさがれ、避難の妨げとなるおそれがあります。
- タンスなどの引き出しのある家具は、通路などに置かないようにします。家具本体を固定していても、地震の揺れにより、引き出しが飛び出してくる可能性があります。

家具が倒れる向きを考える

- 例えば、どうしても寝室に洋服ダンスを置きたいのなら、倒れたときに下敷きにならないよう、向きを考えて配置します。



防災インフォメーション 住宅の耐震化を進めよう

次のいずれにも該当する一戸建ての住宅（一部併用住宅を含みます。）について、耐震化をする場合、助成金が支給されます。詳しくは、お住まいの市町村耐震担当窓口へ！

- (1) 対象となる住宅
 - 昭和56年（1981年）5月31日以前に工事に着手したもの
 - 木造在来工法
- (2) 助成の内容
 - 耐震診断：無料で実施
 - 耐震改修：最大100万円の助成金を支給



家具を固定する

最も確実な方法は、ネジ止め

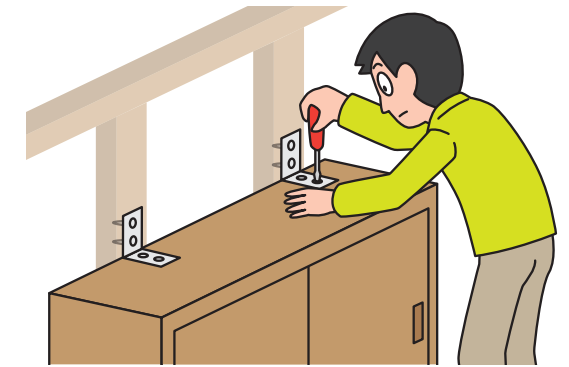
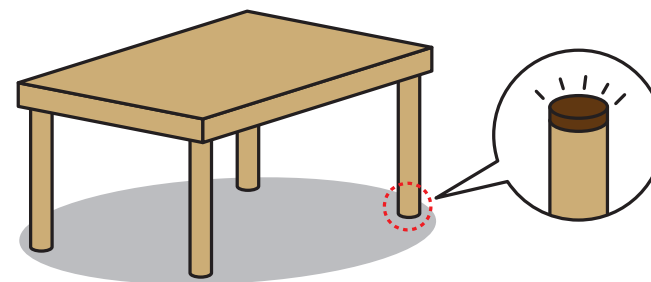
- L型金具を使って、壁にネジ止めして固定します。

複数の固定器具を組み合わせる

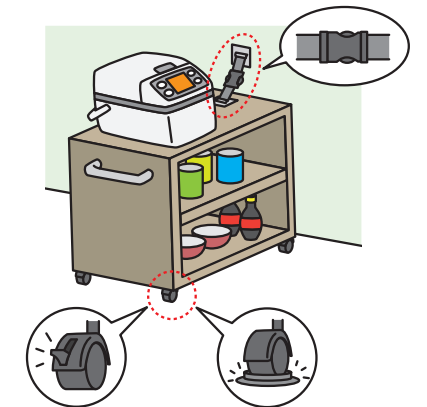
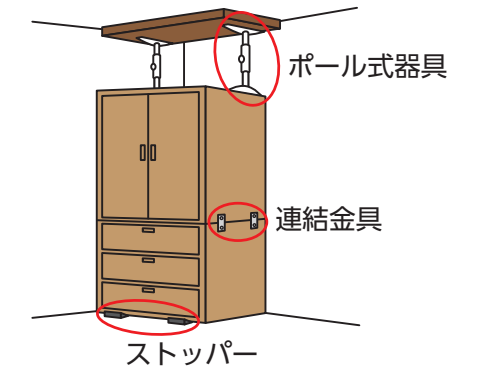
- L型金具での固定が難しい場合は、ポール式器具（つっぱり棒）とストッパーやマット式器具を組み合わせると、効果が高くなります。

家具類の移動を防ぐ

- キャスターのあるものは、必ずロックをかけます。普段動かないものは、キャスター固定用の下皿などを設置します。
- 定位置があれば、壁などに着脱式ベルトでつなげます。
- キャスターのないものは、床との接触部に粘着式の耐震マットやすべり防止マットを設置します。



あて板などで強度を補強



防災インフォメーション ブロック塀などの安全点検

地震により道路沿いにあるブロック塀などが倒壊すると、通行者とその下敷きになるおそれがあります。また、緊急車両の通行の妨げになり、避難や救助に支障が出ます。

塀の安全確保は、所有者の責任です。塀に傾きやひび割れなどがある場合には、施工業者などに相談しましょう。

塀の解体や改修に、補助金が出る場合もあります。



防災ダックのまとめ

就寝のため布団に入ったとき、自分の周りに倒れてくると体に直撃しそうな家具はないかな？

地震では、家具が凶器になることもある。特に就寝中は、倒れてきたり飛んできたりする家具に対処することは困難だ。家具に注意して、安心して就寝できる部屋にしよう。

